

令和8年度小松市立松東みどり学園 学校評価2

	目標・具体的取り組み	担当	評価の観点	判定基準	評価方法	取組の状況（中間・8月提出）		取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	レジリエンス（resilience）の育成	生徒指導主事	児童生徒の自己肯定感、自己回復力が向上しているか	アンケートの肯定的な合計が A: 9 0 %以上 B: 8 0 %以上 C: 6 0 %以上 D: 6 0 %未満	児童生徒アンケート			
	①自己肯定感や自己指導能力の育成のため、児童生徒が考案した活動目標の実践・検証を行う。 ②生徒指導の4つの視点を取り入れた授業づくりを実施する。 ③毎週木曜3限目に、管理職・教務・生徒指導・教育相談・養護教諭で児童生徒の現状把握と情報共有のミーティングを行う。 ④支援会議や専門家との積極的な連携により、多様な児童生徒の理解、保護者や関係機関との連携・協働を図りながら支援を進める。							
児童生徒会	主体性を育む児童生徒会活動の充実	児童会・生徒会担当	児童生徒自身が活動のゴールの姿をイメージし、自主的・主体的に活動できたか	アンケートの肯定的な合計が A: 9 0 %以上 B: 8 0 %以上 C: 6 0 %以上 D: 6 0 %未満	児童生徒会担当者アンケート			
	①児童生徒会目標の実現に向け、役員会を中心として各委員会が主体的にその役割（常時活動・独自企画の運営）を果たせるよう、教職員間で目指す児童生徒会や指導方針、支援の在り方について共通理解を図り、主体性を尊重した指導体制を整える。 ②委員会担当者は、目指す児童生徒の姿や活動の見通しを踏まえ、年間計画やスケジュール等を児童生徒と共有するとともに、計画・実施・振り返りの各場面において、自ら考え判断して行動できるよう計画的に指導・支援を行う。							
特別支援教育	児童生徒理解を深め、特別支援教育の充実	特別支援担当	個々の児童生徒に応じた適切な対応について協議・実践がなされているか	協議・対応ケースの件数が A: 5 0 件以上 B: 4 0 件以上 C: 3 0 件以上 D: 3 0 件未満	個別支援シート			
	①支援員の記録や日常の見取りから気になる児童生徒の実態把握を図る。 ②生徒指導・教育相談部会や児童生徒理解の会において、情報共有と対応策を共通理解し、組織的な対応を行う。 ③必要に応じて支援会議を行い、専門家の助言を得ながら適切な対応ができるようにする。							
保健健康体育	健康の促進・体力の向上	体育担当	児童生徒が体力が向上したと感じているか	アンケートの肯定的な合計が A: 9 0 %以上 B: 8 0 %以上 C: 6 0 %以上 D: 6 0 %未満	児童生徒アンケート			
	・身体計測の後、ミニ保健指導を年2回実施する。 ・地場産物や旬の食材を紹介することで興味を引き出し、食に関する指導の充実を図る。 ・学校保健委員会を、保健給食委員会児童生徒を中心に運営する。 ・体育授業の準備運動に、体育担当者が提案した運動を取り入れる。 ・外部講師を招いた体育指導を通して、児童生徒の体力向上と教員の指導力向上を図る。							
道徳教育	児童生徒が心の成長を実感できる道徳教育	道徳担当	道徳の授業で友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができているか	アンケートの肯定的な合計が A: 9 0 %以上 B: 8 0 %以上 C: 6 0 %以上 D: 6 0 %未満	児童生徒アンケート			
	多様な意見や考え方に触れながら、自己の生き方について考えを深められるよう、道徳の授業において、発問や展開の工夫、ICTの活用等を行い、児童生徒が互いの意見を認め合う機会をつくる。							
家庭・地域との連携	地域に開かれた、信頼される学校づくり	教頭	学校は情報を積極的に発信したり、保護者や地域からの声に耳を傾け、信頼を得ているか	アンケートの肯定的な合計が A: 9 0 %以上 B: 8 0 %以上 C: 6 0 %以上 D: 6 0 %未満	保護者アンケート			
	①コミュニティスクールとして、学校の教育方針や活動状況を各種おたよりやホームページ、オアシスやセンパスや学校公開等で積極的に発信し、地域や保護者の理解を得ながら協働体制を確立していく。 ②来客や電話等での対応を丁寧に行い、誰からも愛される雰囲気であたたかい学校風土を醸成していく。							

学校関係者評価	
---------	--